創業前から公社と「二人三脚」和文化体験、日本茶カフェを開業

千住旭町商店街振興組合（足立区）

路地裏寺子屋 rojicoya（ろじこや）

活用した事業
商店主スキルアップ事業
商店街起業・承継支援事業

access

足立区千住旭町 36-1　TEL.03-6812-0780
https://rojicoya.jp/

路地裏の築 90 年の古民家を改装。カフェにしたのは若い人の興味を引く意図もある。

国内外のお客様が和文化体験を楽しむ。

『路地裏寺子屋 rojicoya』
代表の米本芳佳さん

体験型カフェの一環で企画した「利き茶」。

自分を見つめ大切にする生き方と和文化の伝承を実現する「拠点」を作る

看護師という仕事と出産を経て、米本芳佳さんは「自分を見つめる時間や自分を大切にする生き方」の必要性に気づいた。同時に「子どもたちが自国に誇りを持てるよう和文化を残したい、海外の方との文化交流・相互理解を大切にしたい」と考え、様々な会場を借りて和文化体験イベントを始めた。そして「拠点がほしい」と感じていた時、イベントで使った古民家の家主から「ここでお店をやってみないか？」と声が掛かり、和文化体験の拠点となる日本茶カフェの開業を決意。支援パートナーとして選んだのが公社だった。

創業前の準備段階から公社に相談 創業後は「成長」のための支援を受ける

「地元の信用金庫に、創業するなら公社の支援を受けると良いよと教えてもらい、相談しました。公社の経営相談で、税理士や中小企業診断士に様々なお話を聞け、ハードルが下がりました」と米本さん。開業目前でコロナ禍になりピンチが訪れたが、公社の助成金とクラウドファンディングでなんとか乗り切ることができた。

カフェの一番人気メニュー「どら焼き」。

米本さんはスタッフとともに成長するために『商店主スキルアップ事業』を受けた。そこで学んだ内容の1つめは刺さるキャッチコピーやPOPの作り方。早速、地域イベントの出店で試すと、オリジナル商品の売れ行きが良かった。2つめはホームページの情報発信の仕方で、ITコーディネーターに「現在のHPは和文化体験できることが伝わらない」と指摘され、内容を整理。またHPの分析によって、広報戦略を立てる一助とした。3つめがインバウンド対応で「カフェも体験型にする」などの提案を受け企画を立てた。

多角的なアドバイスを得た米本さんは現在、「日本の文化との感動の出逢いをプロデュース」することに邁進。一流の和の専門家の体験イベントはいつも大盛況だ。

公社の支援で「知識・情報・学び」を得て自分の「やりたいこと」を形にしてほしい

「創業を考えた時から公社とは二人三脚で歩んできた」という米本さん。知識・情報・学びは創業や事業を軌道に乗せるためには非常に大切だが、本業に専念しているとそこに時間を割くことは難しかったと振り返る。

「公社では専門家が直接現場を見て客観的に整理して的確なアドバイスを提供してくれます。ライフワークバランスのことも考えていただき、大変ありがたいと思っています。やりたいことを形にする人が増えたら、世の中もっと楽しくなりますから！」